

# 渥美半島西ノ浜の潮間帯においてヒガシナメクジウオ (脊索動物門：ナメクジウオ綱：ナメクジウオ科) を確認

西 浩孝\*

A discovery of *Branchiostoma japonicum* (Chordata: Leptocardia: Branchiostomidae)  
from intertidal zone of Nishino-hama beach, Atsumi Peninsula, Aichi Prefecture, central Japan

Hiroataka Nishi\*

## はじめに

脊索動物門頭索動物亜門に属するナメクジウオ類は、脊椎動物に近縁な無脊椎動物として知られ、脊椎動物への進化の生き証人と言われる(窪川, 2006)。このため古くから形態学や発生学など生物学の諸分野で注目されてきた。ナメクジウオ科 Branchiostomidae に属するヒガシナメクジウオ *Branchiostoma japonicum* (Willey, 1897) は、日本に分布するナメクジウオ類の1種である。本種の和名はかつてナメクジウオとされていたが、ナメクジウオ類の総称との混同を避けるため、安井・窪川(2005)によりヒガシナメクジウオが提唱された。学名はかつて *Branchiostoma belcheri* が用いられていたが、遺伝情報から真の *B. belcheri* と日本産種は別種であることが判明し、本種に対する最も古い適格名である *B. japonicum* が有効名となる(西川, 2007)。本種は、日本では銚子付近以南の本州太平洋沿岸や瀬戸内海、九州、丹後半島沖に分布し、潮間帯下部から水深75 mまでの透水性が高く有機物の少ない粗い砂底を好んで生息する(西川・水岡, 1990)。通常は砂底に浅く潜っており、砂のすき間や砂粒の表面に存在する微小な有機物粒子を摂食している(逸見ほか, 2000)。かつては全国各地の砂質干潟に多産していたが、近年多くが絶滅または絶滅寸

前になっており、潮下帯でも多くの場所で個体数が減少していることから、海岸ベントスのレッドデータブックでは準絶滅危惧として掲載されている(逸見, 2012)。また、和田ほか(1996)では「希少または危険」に、水産庁(1998)では「危急」にランクされている。このほか、日本のレッドデータ検索システム(野生動物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2017)によれば、2017年1月現在、計8県で準絶滅危惧以上のカテゴリに指定されており、内湾の環境指標種としての関心の高さを示している(木村, 2005)。

愛知県では1941年、蒲郡市三河大島が当時知られていた分布の北限であったことから「大嶋ナメクジウオ生息地」として国指定の天然記念物に指定された(蒲郡市社会教育課, 1970; 文化庁, 2017)。しかし、三河湾内の水質の富栄養化、底質の泥質化に伴って生息数が著しく減少し、1968年に2個体採集されて以来ナメクジウオの採集報告はない(西川・水岡, 1990; 中日新聞, 2016年7月6日朝刊)。三河大島以外では、木村・木村(1995)によって三河湾湾口部の日間賀島南沖から1個体、木村(2000)によって伊勢湾湾口部の知多半島内海沖水深3~8 mの砂底から複数個体の生息が確認されている。また、渥美半島沖の遠州灘からは多数の個体が採集されている(Kubokawa et al., 1998)。「レッドデータブックあ

\* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan. E-mail: nishi.hiroataka@gmail.com

原稿受付 2017年2月22日. Manuscript received Feb. 22, 2017.

原稿受理 2017年2月28日. Manuscript accepted Feb. 28, 2017.

キーワード: 頭索動物, 砂浜, 絶滅危惧種, 保全, 愛知県, 田原市.

Key words: Cephalochordata, sandy beach, endangered species, conservation, Aichi Prefecture, Tahara City.

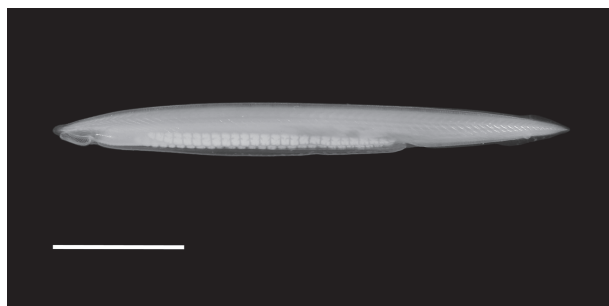
いち 2009」においては、原索動物は他の分類群に比べて調査・研究が進んでいないことなどから調査対象とされていないものの、他の分類群と同様に評価区分を判定した場合には絶滅危惧 IA 類に相当すると考えられるとコメントが付されている（愛知県環境調査センター，2009；木村，2009）。その後，第三次レッドリスト「レッドリストあいち 2015」においても評価対象となっていない（愛知県環境部，2015）。

筆者は 2016 年 5 月 8 日に渥美半島先端に位置する愛知県田原市の西ノ浜において，本種の生息を確認したので，潮間帯からの貴重な確認例として報告する。

ヒガシナメクジウオの減少要因としては，底質の泥化（木村，2009）や，一時的な泥質による被覆が指摘されている（奈良ほか，2002）。今回確認された西ノ浜は伊勢湾湾口部にあたり，三河湾内や伊勢湾内と比較すると潮通しがよく，底質が泥化せず砂質に保たれていることから本種の生息が可能であると考えられる。

### 確認状況

今回新たにヒガシナメクジウオの生息が確認されたのは，渥美半島の先端部に位置し，伊良湖港から三河湾側に約 10 km にわたって続く西ノ浜と呼ばれる砂浜である。保全のため，詳細な地点は公表しない。2016 年 5 月 8 日は大潮であり，干潮の時間帯に調査を行った。砂浜に生息する底生生物を調査するため，干出した潮間帯下部の砂浜をスコップで掘り返したところ，素早く砂に潜る生物がいた。潜ったところを再び掘って採集したところ，ヒガシナメクジウオであった（第 1 図）。周辺を探索したものの，発見できたのは 1 個体のみであった。体長は 39.2 mm で，白色の生殖腺を有することから成熟したオスとみられる。水槽中で観察したところ，底質から掘り出すとしばらくは底質の



第 1 図. 渥美半島西ノ浜産ヒガシナメクジウオ (TMNH-IV-46). 左が頭部. スケールバー：10 mm.

砂の表面に体を横たえ，刺激を与えると砂に潜る行動が観察された（西，2017）。採集した個体は 70% エタノール液浸標本にし，豊橋市自然史博物館無脊椎動物標本 (TMNH-IV-46) として保管されている。

### 謝 辞

文献をご教示いただいた豊橋市自然史博物館の坂本博一氏に感謝する。

### 引用文献

- 愛知県環境調査センター（編），2009. レッドデータブック愛知 2009 - 動物編 -. 愛知県環境部自然環境課，愛知，649 p.
- 愛知県環境部，2015. 第三次レッドリスト「レッドリストあいち 2015」. 愛知県環境部，名古屋，48 p.
- 文化庁，2017. 国指定文化財等データベース. [http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index\\_pc.html](http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html) (2017 年 1 月 24 日 閲覧).
- 蒲郡市社会教育課（編），1970. 国指定天然記念物三河大島ナメクジウオ生息調査報告書. 蒲郡市教育委員会，蒲郡，22 p.
- 逸見泰久，2012. ヒガシナメクジウオ. 日本ベントス学会（編），干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック，東海大学出版会，秦野，239.
- 逸見泰久・東 幹夫・山口隆男，2000. 有明海のナメクジウオ. 佐藤正典（編），有明海の生きものたち—干潟・河口域の生物多様性，海游舎，東京，396 p.
- 木村昭一，2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類（予報）. かきつばた，26: 18–20.
- 木村昭一，2009. ナメクジウオ. 愛知県環境調査センター（編），レッドデータブック愛知 2009 - 動物編 -. 愛知県環境部自然環境課，愛知，621.
- 木村昭一・木村妙子，1995. 27 年ぶりに三河湾で採集されたナメクジウオ. 南紀生物，37(2): 129–130.
- 木村妙子，2005. 国内のレッドデータブックに掲載された海産・汽水産無脊椎動物：その特徴と問題点. 日本ベントス学会誌，60: 2–10.
- Kubokawa, K., Azuma, N. and Tomiyama M., 1998. A new population of amphioxus (*Branchiostoma belcheri*) in the Enshu-Nada Sea in Japan. *Zool. Sci.*, 15: 799–803.
- 窪川かおる，2006. 脊椎動物への進化の生き証人—ナメクジウオ. 学術の動向，11(9): 36–41.
- 奈良正和・渡部寛志・井内美郎・忽那定範・柳澤 暁，2002. 粗粒・細粒碎屑物による急速埋没に対するナメクジウオ *Branchiostoma belcheri* の耐性. 日本ベントス学会誌，57: 97–105.

- 西 浩孝, 2017. 砂に潜るヒガシナメクジウオ. 動物行動の映像データベース, データ番号:momo170125bj01b. (<http://www.momo-p.com/showdetail-e.php?movieid=momo170125bj01b>)
- 西川輝昭, 2007. 頭索動物亜門. 飯島明子(編), 浅海域生態系調査(干潟調査)業務報告書, 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田, 222-223.
- 西川輝昭・水岡繁登, 1990. ナメクジウオ 知られざる天然記念物. 採集と飼育, 52(4): 152-155.
- 水産庁(編), 1998. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック. 日本水産資源保護協会, 東京, 16+437+4 p.
- 野生動物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2017. 日本のレッドデータ検索システム. <http://www.jpnrdb.com/> (2017年1月17日 閲覧).
- 安井金也・窪川かおる, 2005. ナメクジウオ—頭索動物の生物学. 東京大学出版会, 東京, 276 p.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. *WWF Japan Science Report*, 3: 1-182.